

茨城偕行会は、6月19日(金)「茨城県護国神社」において令和8年度総会を開催した。本年度の総会参加者は、来賓5名、会員14名の合計19名となった。

開会に先立ち、護国神社本殿に昇殿、正式参拝を行った。参拝後には林竜司宮司より御礼の挨拶があり、全員気持ちを新たに総会会場の参集殿に移動した。

10・30大田保重副会長(陸自71)の司会で総会を開始した。国歌斉唱、戦没英霊・殉職自衛官・昨年の逝去会員に対し黙祷を捧げた後、山根峯治会長(陸自70)の挨拶に引き続いて、来賓の長島修昭茨城県隊友会会長、小原大森英霊にこたえる会会長、高橋正尚後方支援学校武器科部総務課長からご祝辞をいただいた。

議事は、議長を山根会長、説明を佐々木事務局長が務め、令和7年度事業報告・収支決算(1、2号)、令和8年度事業計画・収支予算(案)(3、4号)の全ての議案について原案通り可決された。

第2部の記念講演は、11・15より茨城地方協力本部長の大谷雅之1等陸佐による演題「防衛力の改革の方向性」を拝聴した。日本を巡る厳しい安全保障環境下、防衛省が鋭意検討を進めている防衛力整備の状況について多くの画像をもとにわかりやすく紹介・説明がなされた。会員一同、平素より関心の強い内容に真剣に聞き入っていた。



茨城地方協力本部長 大谷雅之 1等陸佐による講演

12・30からの懇親会では、河野廣行副会長(陸自74)の司会で開始された。初めに大高哲男名誉会長(陸自66)より映画「ペリリュー・楽園のゲルニカ」のモデルとなった歩兵第2聯隊(水戸の郷土連隊)の関係史料展示会の開催について紹介がなされた後、小野一也施設学校副校長に挨拶をいただき、懇親会食へと移行した。

懇親会では、司会の指示に従って参加会員の自己紹介や近況報告等が行われた後、記念講演内容や部隊の現況等についての質疑応答が活発になされるなど、情報・意見交換に会場が盛り上がりを見せる中、所定の時間となり、すべての行事

が無事締めくくられた。

参加者一同、今後予定されている終戦記念祭、茨城県特攻戦没者慰霊祭等での再会を約して、会場を後にした。

前出以外の出席者(敬称略)

小森重信(陸自65)、小林真臣(陸自66)、吉岡昭彦(陸自86)、坪沼浩(陸自01)、齋藤勝彦(陸事務官)、齋藤英夫(陸事務官)、永井勇(賛助)、小川直也(賛助)、岡野安治(賛助)



青森県偕行会
「第4回弘前忠霊塔例大祭」等に協力

会長 稲村孝司 陸自75

7月26日「第4回弘前忠霊塔例大祭」が行われた。遺族会や県偕行会、県隊友会、弘前駐屯地などの関係者や国会議員秘書、県議ら約60人が参列し、戦没者を供養するとともに平和への祈りを捧げた。

県偕行会は、例大祭への協力は勿論、前日の同塔周辺の草刈り清掃奉仕にも現役自衛官70名の支援を得て協力した。同草刈り清掃奉仕は一昨年から例大祭前日に行うこととなっていた。草刈り清掃が終わった会場では、テント張り等の例大祭準備にも汗を流した。テントは昨年までは学校での運動会等で使われている鉄パイプの八本支柱の重いものだったが、「忠霊塔を守る会」で新たに高齢役員でも立てられるテントを購入し、作業は容易になった。テント張りの後には、来賓者用の椅子、一般参列者用のパイプ椅子を並べ、忠霊塔本堂での慰霊行事の中心となる、弘前市を代表する長勝寺、本行寺、海蔵寺及び盛雲院の四住職による読経の準備を行った。

例大祭は、梅雨空の下、午前9時から準備に取り掛かり、午前11時からの国歌斉唱に始まり、慰霊行事として四住職の読経により戦没者の慰霊が行われた。読経の間、参列者は本堂で順次焼香を行った。引き続き、例大祭式典に入り、須藤忠霊塔を守る会会長の挨拶、来賓として弘前市長代理、木村次郎衆議院議員代理、

阿部廣悦県英霊に応える会会長が挨拶した。来塔者感想文の紹介後、海ゆかばを斉唱して交歓会へ移行した。



2026/07/26

交歓会は、津軽家の菩提寺である長勝寺内の「御成りの間（殿様の為に設けられた床の間）」で行われ、読経の四住職、田村徹第39普通科連隊長兼弘前駐屯地司令、齋藤毅県護国神社宮司、県遺族会会長、県議会議員、市議会議員等36人に対して、忠霊塔を守る会の活動を紹介し、戦没者の慰霊の場としての維持・管理に一層の理解を深める機会ともなった。

同会には、小生始め当会三上会員、帯川会員、北畠会員、渋谷会員、中村会員、上月会員及び櫻庭会員の8名が参加し、その様子は、30日に地元新聞陸奥新報の

七面・文化欄に文筆家による「弘前忠霊塔にて伯父たちへ思いをはせる」として、写真四枚と共に七段にわたり大きく報道され、県民及び市民の大きな関心を得た。特に、長勝寺に建つ「軍馬之霊」碑も紹介され、正に陸軍における人馬一体の表れとして、戦没者と軍馬が共に慰霊されている聖地を想わせた。記事では「忠霊塔前での須藤会長（長勝寺住職）」、「陸軍墓地」、「長勝寺内の「軍馬之霊」碑及び忠霊塔東側に隣接する弘前市管理の「禅林公園」のモンキチョウとシロツメクサの4枚の写真も掲載された。

記事を投稿した文筆家は園内のベンチに腰掛け、雲で覆われた岩木山を眺め、足下の細く小さなネジバナが薄桃色の花を咲かせているのを見渡し、ネジバナの花言葉「思慕、恋人や家族を恋しく思い、慕う…」と紹介していた。

7月も終わり、いよいよ8月は「弘前ねぶたまつり」である。弘前桜祭りに合わせて五日間全室を一般公開したのに続き、ねぶたまつり期間中の1日から3日とお盆となる12日から14日の合計6日間も忠霊塔本堂、納骨堂、礼拝の間など全室を、午前9時から午後四時まで一般公開した。毎日2名の偕行会員が説明にあたった。

来場者には、まず、本堂前の常時開放室に掲示されている青森県戦没者銘板・2万9176柱の氏名と約1700の



ふりかへ わくわく 水梨由佳

弘前忠霊塔にて伯父たちへ思いをはせる

骨壺を説明する。併せてお釈迦様の仏舎利及び三蔵法師の霊骨が納められている全国でも希少な忠霊塔であることを付け加える。引き続き、本堂に案内し、仏舎利及び三蔵法師の霊骨が納められている金庫と忠霊塔の本尊・木造の軍神像を説明する。次いで、拝礼の間を通り、第一展示室では、戦争の記録をパネルを使って説明、引き続き納骨堂4室を時計回りに案内し、第二展示室では、特攻隊の記録を写真、遺書、パネルで説明する。

来塔者の感想文では、「祖父へ、今年

も来ました。祖父の知らない〇〇より」「正しい歴史の真実を世界が報道されることを願っています（アメリカメリーランド）」「戦争で死んだ人も生きて帰ってこれた人にも感謝したいと思います（小学5年生）」などが記録帳に記載されていた。

全国の陸修偕行社会員の皆様、是非弘前を訪問して下さい。青森県偕行会がご案内致します。